

平成 20 年度第 1 回 ExTEND2005 リスクコミュニケーション推進検討部会
議事要旨

I 日時：平成 20 年 5 月 30 日（金）14:00-16:00

II 場所：合同庁舎 5 号館 2 階 共用第 6 会議室

III 主席委員：北野大（座長）、青山好延、内山巖雄、小黒一三、間正理恵、
村田幸雄、脇森裕夫
事務局：木村環境安全課長他

IV 議題：

1. 第 10 回国際シンポジウムについて
2. 身近な野生生物の観察事業について
3. 化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページについて
4. その他

V 議事要旨：

以下の内容について、資料に沿って事務局より説明・報告を行った後、質疑応答を行った。

(1) 平成 19 年度第 1 回 ExTEND2005 リスクコミュニケーション推進検討部会
及び平成 19 年度第 1 回 ExTEND2005 化学物質の内分泌かく乱作用に関する
検討会について報告を行った。

(2) 第 10 回国際シンポジウム（さいたま市）について報告を行った。

【委員からの主な意見】

- ・ 10 年を振り返るということで「日本の歩み」としてよくまとめられており、また、パネル展示も十分行い、一般の参加人数も増えて一応の成果が得られたと思う。
- ・ (内分泌かく乱作用については) 非常に分かりにくいテーマであり、一般の人はすぐに結論を出しにくい問題であるため、繰り返し伝える努力が必要である。
- ・ 事前の広報の期間が短かったのではないか。参加者を増やすためにも、できるだけ早くプログラムを決め、広報を早く出していきたい。

(3) 平成 19 年度身近な野生生物の観察事業についての報告、及び平成 20 年度の方向性についての検討を行った。

【委員からの主な意見】

- ・ この事業は、ExTEND2005 リスクコミュニケーションの 1 つのプロジェクトとして、子どもたちが野生生物に親しむということで十分責務を果た

していると思う。平成 20 年度の方向性にあるように化学物質との関連性が必要であれば、それを観察現場に求めるのではなく、観察結果をまとめた報告書から、専門家の方が化学物質との関連性等を読み取って報告すればよいのではないか。

- ・化学物質の影響かどうかということの判断が難しいということや、継続して同じ地点で観察を行わなければ結果が出せないといった問題点はあるが、いずれにしても、ExTEND2005 の他のプロジェクトの成果をうまく反映させながらこの事業を継続させていくということが重要であると思う。
- ・指導者に、子どもたちが興味のある段階や年代、地域、時期などにあった手法で観察ができるよう、指導をしていただくことが重要である。また、子どもたちに段階に応じた道筋をつけてあげられるマニュアル的なものがあるとよいと思う。
- ・関心や興味を持っている子どもはよりレベルの高いことまでやれるような、柔軟性のある取り組みをすれば面白いと思う。
- ・子どもたちが自分たちのフィールドで自主的に楽しく観察をし、自発的な疑問が出てくるということが重要であり、その結果継続的に自分たちの近くの自然に興味を持つことで、その中に何か変化が現れた際に気付いてもらえることになる。こちらから化学物質に着目した観察になるようにと言うのではなく、子どもたちから興味が出てきたら助言をして助けてあげればよいのではないか。

(4) 平成 19 年度のホームページの運用の実績及び平成 20 年度の予定について報告を行った。

【委員からの主な意見】

- ・国際シンポジウムの日程と場所だけでなく第 1 報として掲載し、その後順次お知らせを掲載してはどうか。
- ・アンケートを積極的にもらえるような工夫を検討いただきたい。
- ・「あなたが内分泌かく乱物質について不安に思っていることは何ですか」といったアンケートを行い、それにそった情報提供を行うことで、一般のニーズにこたえられるのではないか。
- ・横断的に、各国の政府がそれぞれの国民のために内分泌かく乱物質について広報しているようなところが一覧できるようなページがあったら非常に役に立つと思う。